

## 筑波大学と附属学校との共同研究について

小島 道生

### 1. 共同研究に関する組織の現状

筑波大学は筑波小学校、附属中学校、附属高等学校、附属駒場中・高等学校、附属坂戸高等学校、附属視覚特別支援学校、附属聴覚特別支援学校、附属桐が丘特別支援学校、附属大塚特別支援学校、附属久里浜特別支援学校がある。筑波大学は総合大学であり、各附属学校を統括する附属学校教育局を中心に、それぞれの附属学校においても数多くの共同研究が展開されている。本稿で、それら全てを紹介することは紙面の都合上困難である。そのため、主に筑波大学附属学校群を統括する附属学校教育局が中心となり、附属学校と取り組んでいる共同研究を中心に紹介をする。

### 2. 大学と附属学校との共同研究について～附属学校教育局の取り組みを中心に～

附属学校教育局では、大学の教員と附属学校の教員が共同でプロジェクト研究を企画・運営をし、様々な教育課題に対して取り組んでいる。また、外部資金を獲得し、大学と附属学校で協力しつつ進めている実践研究や教育活動もみられる。以下、その概要について説明する。

#### 1) 教育局におけるプロジェクト研究

附属学校教育局の教員と附属学校が共同でプロジェクト研究として取り組んでいる内容は以下の通りである。令和6年度は全部で4つの研究プロジェクトがあり、研究が進められている。

- ・プロジェクト研究1『盲ろう幼児児童生徒の指導・支援に関する研究』(4年目)
- ・プロジェクト研究2『インクルーシブ教育支援システムの構築に向けた研究』(2年目)
- ・プロジェクト研究3『子供のウェルビーイング』(1年目)
- ・プロジェクト研究4『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した教育実践の在り方』(1年目)

なお、プロジェクト研究以外にも、附属学校局が中心となり、インクルーシブ教育の実現に向けて、附属学校の児童生徒が集う交流行事や共生シンポジウムを開催してきている。そして、その中で、附属学校教育局教員が中心となり、実践研究を実施してきている。それらの研究成果の一部は、筑波大学附属学校教育論集などに掲載され研究成果の発信にも取り組んでいる。

#### 2) 外部資金を獲得して取り組んでいる研究

外部資金を獲得して取り組んでいる主な研究は、以下の通りである。

- ・文部科学省 特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業  
附属学校教育局および図書館情報メディア系教員と附属駒場中・高等学校教員との共同研究
- ・文部科学省 特別支援教育に関する実践研究充実事業「盲ろう児に対する指導の在り方に係る調査研究」  
附属学校教育局教員 と附属学校教員との共同研究

・文部科学省 教育研究開発事業

小学校 生活科、社会科との関連性、連続性をふまえた、知的障害のある児童生徒の「主体的な学び」につながる生活科、社会科の授業づくりと評価の検討

人間系教員、附属学校教育局教員と附属大塚特別支援学校教員との共同研究

・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)認定校 附属駒場高等学校

### 3. 四校研・小中高合同研究

「四校研」は、筑波大学, 筑波大学附属高等学校, 筑波大学附属中学校, 筑波大学附属小学校の四つの学校が連携して、授業研究を深めていくことを目的として取り組まれている。「四校研」は教科別に組織されている。

以上、主に附属学校教育局が関わっている研究について取り組んできたが、11校ある筑波大学附属学校では、大学との様々な共同研究が取り組まれている。総合大学の強みをいかして、最先端の研究を教育実践へつなげていく様々な研究が展開されている。

(筑波大学人間系附属学校教育局 教授)